

学校法人
内丸学園
盛岡幼稚園

園報

第237号
(6月)
2016

共に遊び、考える力を育てる

学校法人内丸学園 理事長 坂本 洋



幼稚園は、子どもが初めて出会う学校と言われます。その学びは、子ども達が共に遊びあうことから深まります。幼児はもともと好奇心や活動性が旺盛で、幼稚園生活の中で自分達がやってみたく興味や関心に誘われるとすぐに行動します。それを子どもの主体的な「遊び」といってですが、幼児はその遊びをとおして、感性や表現力、さらには考える力、人とのかわかる力・気持ちや伝えあうコミュニケーション力を育み、学びの基礎を培っています。

従って、教師の役割は、子ども達が共に遊びあう環境を意図し構成することが指導計画として大切ですが、そこから、幼稚園での学習は、「共に遊びあう環境による教

育」なのです。

そんな中で、本稿は共に遊びあう中で、互いの意思疎通、気持ちや伝えあうコミュニケーション力「ことばの力の育ち」を中心に考えてみたいと思います。

特に最近、子どもの、子どもだけではなく大人も「言葉力」が低下しているのではと危惧されております。

言葉の力には、大きく二つの働き、気持ちを伝えあうコミュニケーションの道具と思考力の道具の働きが指摘されます。私たちは、ものごとを考えるとき必ず言葉を使い自分の思いや考えを方向付け整理するといわれます。「伝えることば力」ですが、それとは別に、自分の心とのコミュニケーション

(自己内対話)能力、思考的学習能力、あれこれと思いを巡らし予想したり比較したり、物事を関連付けたりする働きの、ことば力「考えることば力」の働きです。

「ことばの力の育ち」は、この二つの働きを念頭に共に遊びあう環境の中で、保育指導として大切にします。その力を育て質を高めるためには、とにかく対話、話し合いが重要で静かに話しかけ、子どもの思いや考えていることをしっかり聞くことが基本とされます。

子どもとの対話がスムーズにいかない時や接し方に困った時には、おおむね次のようなことを心掛けると良いようです。①話す内容を批判しないで共感して聞く。子どもの顔を見て、うなずいたり相槌を打ちながら聞く。②子どもの話してくれたいことを、タイムリングよく繰り返していうこと(しっかり聞いてるよ。安心感)。③話の順序や内容が混乱した時、「今のお話は、〜ということかな」と整理してゆつくりと話して聞かせる(話し方のモデル提示)。④子どもの話し方と調子をあわせること(話す速さ、声の大きさ、高

さ、間の取り方など真似るように返す)。

主に「考えることば力」の育ちの対応を述べましたが、これからの多様な文化、多様な人々とのかわりが多くなる社会を生き延びるために求められる資質や能力、生きる力の基礎として、前述したように「考えることば力」が注視されております。

まさに「考えることば力」の育ちが大事です。前号園報でも述べましたが、共に遊びあう環境の中で①しっかりと話を聞く。②分からないことを問う。③自分の考えを持つ。④事柄をつないでいく。このことがしっかりと身につくよう日頃の保育にかかわってまいります。保護者の皆様も幼稚園と連携して、カウンセリングマインド、受容的態度と共感的理解を基本に子どもたちの心に寄り添い、しっかりと「言葉の力、考える力の育ち」が高められますようお願いいたします。



おたまじゃくしの変身

園長坂本信行



子どもの知識力は旺盛である。特に、変化する物に対しては興味を示し、真剣に取り組む。

五月二十日、小岩井農場へ親子遠足があり、子ども達は、おたまじゃくしを園に持ち帰ってきた。

二十六日の誕生会で園児に対しておたまじゃくしを題材に話した。さすが年長児は、おたまじゃくしは蛙の子ということは知っていたが、三歳児の中には「えっホント」と、反応する子も見られた。おたまじゃくしがカエルに変身するなんてとても想像できない。

どのようにしてカエルになるのか尋ねたら、「足が出る」「手が出る」「イヤ、足が先なんだ」と、いろいろ出された。そこで、どちらが先なのかをこれから観察しようということ、その日の園長の話は終わった。

時折、おたまじゃくしを観察する。私が見ていると、周りに子ども達が寄ってきて、話しかけてく

る。写真①の様に、後ろ足が出ていても「足だ」「イヤ手だ」との意見があった。確かに、後ろ足だけでは、それが手か足か分からない。

六月一日には、前足が出ていた。四本の足が出ると後ろ足と前足の区別ができる(写真②)。そうなれば、先に出したのは後ろ足であるという意見の方が優勢になる。

後ろ足は前足より大きくなっていて、指も見える。頭も、おたまじゃくしの様な、のっぺらぼうではなく、凹凸が出て、カエルに近くなっている。しかし、まだしっぽもあり、とてもカエルまでには変身していない。

「小っちゃい」「かわいい」の言葉のやりとりと共に「ジャンプするよ」との声に、別の子がカエルに触った。「わっ!、おたまじゃくしに戻った」と、驚きの叫びが発せられる。水槽の壁に這い登っていたカエルが、水に落ちてしっ

ぽを揺らして泳いだそのしぐさが、おたまじゃくしの泳ぎに似ていたのでそう発したのであろう。

子どもの知識力は旺盛で、興味関心はつきない。しかし、その興味関心も適切な関わりがなければ薄れていく。

「おたまじゃくしだ」「飼ってみよう」「飼育の環境を整えよう」「本で調べよう」「えさは」…。次から次へと疑問がわき、その課題に対して友達と話し合いながら、教師の支援をいただき挑戦していく。

おたまじゃくしがカエルになるまでには時間がかかる。一日や二日で変身するのではない。じっと待つという姿勢も必要になってくる。その興味や関心を持続させるためには、子どもの内面から生じる興味と同時に、適切な関わりや刺激が求められる。おたまじゃくしという生き物を媒介にし、友達同士の言葉のやりとりや交流が子どものイメージを広げ、更に大人との関わりや本が子どもの興味や関心を広げていく。

おたまじゃくしをカエルにまで変身させた教師の支援に感謝しつつ、おたまじゃくしとの関わりの一こまを紹介した。



写真② 4本の足が出たおたまじゃくし(6月1日)



写真① 後ろ足の出たおたまじゃくし

子どもの生活・遊び

日々の変化から

いちごクラス 佐々木 肇

緊張しながら保育室に入った四月一日から、三ヶ月。

最初は、子ども達にじっと見つめられる視線を感じ、不安になるかな？と遠慮して目を合わせるのも迷い迷い。心の中に潜入し宝探しをするような思いで、子ども達が自身の動きで知らせてくれることを汲み取りかかわってきました。好きな物を見つけ、心地いいかわり方を探り、苦手を知って：心が通ってニコッと笑顔になった時は、何より嬉しい瞬間です。

今では、夢中で遊びに向かう姿、「イヤだ」と訴える姿、友達と「フフ♡」と笑い合う姿。懸命に言葉で伝えようとする姿も増えてきました。それぞれが自分なりの思いを出し、随分賑やかになったことに、嬉しい悲鳴が上がります。私事ですが、娘が二歳位の頃、先輩に「手がかかる時期ではなく



手をかけさせてもらえる時期なのだ」と教えて頂きました。娘には今もたくさん手をかけさせてもらっており大切にしている言葉です。

四月から、いちごさん達の成長の一步一步を体感しています。日々成長していく子の「今」を大切に、楽しいこと、嬉しいこと、時にはそうでないことも、おうちの方と共有し合って、子育てのお手伝いをしていければと思います。



ミニカー遊び

「一緒に遊ぼう！」

Bクラス 岩根 香織

4月のワクワク、ドキドキの入園式を迎えてから2か月が過ぎました。

入園したばかりの頃は、お兄さん・お姉さんになったと喜んでいる子、初めてのことに戸惑い泣いてしまう子や、緊張している様子の子ども達でした。今では緊張も解けて、「先生、おはよう！」と元気に登園し、張り切って過ごしています。朝の支度を終えた子ども達は、好きな遊具を見つけて遊び始めたり、「今日はどこにいくの？」と目をキラキラと輝かせながら聞いたりしています。

最近では、「○○くん（○○ちゃん）一緒に遊ぼう！」と誘い合ったり、「ままごとや病院ごっこなど同じ遊びを楽しむ姿が見られるようになってきました。時々、気持ちがあまく伝わらなかつたり、ぶつかってしまったりして、ケンカになってしまうこともあります。先生が間に入って双方の気持ちを代弁しながら少しずつ相手の気持ちに気付き、さらに一緒に遊ぶこ

と、やり取りをすることの楽しさを経験していきたくと考えています。

今後も、戸外遊びやプールなど子ども達と一緒に楽しみながら取り組んでいきたいと思っています。

友達と一緒に。

B1クラス 竹岡 真美

4月、Bクラスは新しい仲間を3名迎え、30名でスタートしました。2階の保育室になって行動範囲も広がり、毎日元気いっぱい過ごしています。

朝の支度を終えると、好きな遊びに向かう子ども達。虫かごの中の虫達の様子を見に行く子、人形やままごと布団を出してお家ごっこを始める子、ホールのマルチパネで遊び出す子、長縄跳びに何度も挑戦する子等々、それぞれやりたいことを見つけて楽しんでいきます。そして、その遊びの中では、友達存在が大きいものだと感じます。マルチパネや大型積み木は友達と声を掛け合って組み立てながら楽しい遊びの場ができていきます。友達の間で「自分もやってみよう」と新しい遊びに興味を広げていくこともあります。

歌もダンスも友達と一緒だと二人よりずっと楽しくなります。

この一年、友達と一緒に過ごす中で、楽しい気持ちや嬉しい気持ちをたくさん感じて欲しいと思います。時には、自分の思うようにならないもどかしさや悔しさを感じることもあるかもしれません。それもプラスの経験になるよう丁寧にかかわり、一人ひとりが心も体も大きく成長できるように支えていきたいです。

「Aクラスの子も達」
Aクラス 南嶋 優理

元氣いっぱいAクラスの子も達。4月当初に比べて、徐々に年長さんとしての生活にも慣れてきて、好きな遊びをみつけてじっくりと楽しむ姿もみられるようになってきました。

新聞紙や空き箱、画用紙などを使い、自分たちで工夫して作りたいたものを作ったり、イメージを膨らませて遊びをどんどん発展させていったり。「こうしたらほうがいいかな?」「こうしたらもつとよくなるんじゃない?」と、友達同士で試行錯誤を重ねる姿や、発想の豊かさには、さすが年長さんだ

なあと日々驚かされています。

また、年長さんとして、園の代表として、様々なイベントに参加する機会も増えてきました。たくさんの人たちの前で踊ったり、話したりすることに、最初は緊張している姿もみられましたが、経験を重ねるごとに、だんだんと自信もついてきたように思います。

これからもわくわくするようなイベントや園の行事が盛りだくさんです。Aクラスの子どもたちにとっては、幼稚園生活、最後の一年間。みんなで楽しい思い出をたくさん作っていくことができるように、一日一日を子どもたちと大切に過ごしていきたいと思えます。子ども達の自由な遊びの発想や成長を見守っていききたいと思えます。

ふたば会会長より

親子でお世話に

Aクラス 柿崎順子 (莉乃)

今年度ふたば会会長をさせて頂くこととなりました。正直、右も左もわからないまま走り出しています。ふたば会役員はじめ、会員の皆様と協力していきながら、子ども達にとって素晴らしい園生活

となる様皆でフォローできればと考えています。一年間よろしくお願ひします。

長い歴史を誇る盛岡幼稚園ですが、私自身もこの園のOBです。(ちなみに担任は小林弘子先生でした)昔から自由でのびのびとした園という印象が強く、当時の私は毎日がとても充実していた記憶が未だにあります。今は行っていませんが、家庭部の午睡後にひたすら跳び箱を跳び、高く積み上げたつみ木ハウスでおうちごっこ。鬼ごっこと言えば私の時代はブッチュマン(笑)。逃げ回る人を追いかけてタッチの代わりにブチュッとキス♡そんな飽きない遊びを常にしていた事を鮮明に覚えています。今考えてみれば、先生方の胸の内で色々な意見もあったことでしょう…。寛大な心で温かく見守って下さったのだと思います。現在も当時の雰囲気と変わらないこの幼稚園に、母となった今、再び携われる事を嬉しく思っています。

娘たちAクラスにとって義務教育前の貴重な一年、盛岡幼稚園児らしくのびのびとパワフルに過ごしてもらえたらと願っています。

編集後記

平成28年度も元気にスタートしました。入園・進級からあつという間が過ぎ、気が付くともう梅雨の時期。今年度からの新しい取り組みとして月一回のダンスレッスンが始まりました。リズムカルな音楽に合わせて、講師の動きを見よう見真似で体を動かし、頭も体もリフレッシュできるとてもいい時間を過ごしています。

花の日礼拝では家庭から持ち寄って頂いたお花を消防署が移転した為、中央郵便局に年長児が届けられました。局内の見学をさせてもらうことができ、郵便の仕分けの機械を見た子ども達の驚きの表情…。園に戻ってきても興奮さめやらぬでした。きれいなお花をありがとうございます。

学校法人 内丸学園
幼保連携型認定こども園
盛岡幼稚園
〒020-0011
盛岡市中央通一六四七
TEL六二二一三三〇一
理事長 坂本 洋